

北九州市保健環境研究所報

第 52 号

(令和6年度)

北九州市保健環境研究所



北九州市民憲章

わたしたちのまち北九州市は、美しい自然に恵まれ、ながい歴史とたくましい産業をうけついできました。

わたしたち北九州市民は、このまちを愛し、よりいっそうの市民参加によるまちづくりをめざしています。

このふるさとに、実りある未来を築くため、わたしたちは、みんなで守る約束を定めます。

緑を豊かに 清潔で美しいまちにします

きまりを守り 安全なまちにします

人を大切にし ふれあいの輪をひろげます

元気で働き 明るい家庭をつくれます

学ぶ楽しさを深め 文化のかおるまちにします

はじめに

保健環境研究所報第 52 号の発刊に際しまして、ご挨拶を申し上げます。

令和 5～6 年度の 2 年間、地方衛生研究所全国協議会九州ブロック支部長を務めさせていただきました。この間、九州ブロック会議、地域専門家会議、地域レファレンスセンター会議、自然毒による食中毒を想定した模擬訓練及び模擬訓練結果検討会をそれぞれ開催し、九州・沖縄地域の地衛研の連携強化や職員の人材育成に取り組んでまいりました。

私自身、これまで市役所内において多くの部署を異動してきましたが、研究所ほど、他の自治体との「横の繋がり」が深い組織はそんなに多くはなかったように思っております。地方自治体の研究所は、かつての公害問題に取り組んできた時代から、情報交換や技術協力、さらには共同研究など相互に連携を図ってきましたが、九州ブロック支部長として、改めてその繋がりや強さを感じたところです。

さて、令和 7 年 4 月、今後の感染症等への対策を強化する目的で、国立感染症研究所 (NIID) と国立国際医療研究センター (NCGM) が統合し、「国立健康危機管理研究機構 (JIHS)」が発足しました。JIHS には、地方自治体の研究所の技術力の維持・向上を図るため、感染症に係る国際的な知見や全国的な感染状況の提供、検査技術や試薬の提供、研究所職員に対する研修や技術的な支援を行うことなどが役割の一つとして示されました。

現在、地方自治体の研究所の技術力の維持・向上は、喫緊の課題となっていますが、JIHS の設立により、今後、国や関係機関とのさらなる連携強化や人材育成への取り組みが進むことが期待されます。

また、新たな課題として、有機フッ素化合物 (PFAS) による環境汚染が顕在化してきました。国は、令和 2 年に設定した公共用水域・地下水における暫定指針値を皮切りに、令和 6 年 6 月には、内閣府の食品安全委員会において、PFAS の健康影響について国として初となる評価書を決定、令和 7 年 6 月には、ミネラルウォーターの規格基準、さらに水道水の水質基準がそれぞれ設定されました。

本研究所においても、現在、地下水に加え、河川や海域など公共用水域の PFAS 調査を実施していますが、今後は、ミネラルウォーターについて速やかに検査体制の整備を進めることとしております。

地方自治体の研究所は、今後の感染症等への対策に留まらず、私たちの生活に影響を及ぼすおそれのある化学物質問題、そして温暖化や脱炭素社会の実現といった地球規模での環境問題など様々な課題に対して、これまで以上に大きな役割が求められることとなりました。

このため、単なる検査機関ではなく、行政に対して政策提言できるような組織として、専門性の高い人材の育成や次の世代への技術の継承を図ってまいりますので、皆様方の一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和 7 年 12 月

北九州市保健環境研究所
所長 佐藤 健 司

目 次

第1 沿革・組織及び概要

1 沿 革	1
2 組 織	1
3 検査件数	2
4 決算・予算概要	3
5 分析機器整備状況	4

第2 業務内容

1 試験検査等	
環境部門	5
衛生化学部門	8
微生物部門	14
2 調査研究	22
3 そ の 他	32

第3 講演発表

・自動同定定量システム(AIQS-GC)を用いた北九州市内公共用水域の平常時のスクリーニング分析結果について(環境保全・公害防止研究発表会講演)	36
・自動同定定量システム(AIQS-GC)を用いた北九州市内公共用水域の平常時のスクリーニング分析結果について(九州衛生環境技術協議会発表)	38
・北九州市における降下ばいじん測定と火山の噴煙の影響事例	40
・北九州市内河川におけるマイクロプラスチックの実態調査と考察	42
・ナツメグの過剰摂取による食中毒を想定した令和5年度九州ブロック模擬訓練について	45
・ワンヘルス・アプローチに基づく食中毒菌及び薬剤耐性調査	47
・薬剤耐性菌におけるNGS解析の現状と課題	50
・A型インフルエンザウイルスの全ゲノム解析の手法の検討	52